



厚真レーションズ

活動紹介

北海道胆振東部地震によって大きな影響を受けた厚真町で、子どもの遊び場作りを中心に地域課題に取り組む活動を展開しています。地域に都市部の若者が関わるきっかけを作ること、震災前からの繋がりをさらに強めて長期的な繋がりを持てるようなプロジェクトです。

2019年総括

今年度はシカ柵や冒険の杜、長期滞在など新しいプロジェクトばかりで、ボランティアの参加者と様々な形で厚真町に関わることが出来ました。厚真町を訪れて活動する度に地元の方との知り合いが増えて、いつのまにか厚真町の人に会うために行くようになり、人とのつながりの強さを感じる一年となりました。(チャン)

目的・背景

厚真町内の災害フェーズは復旧から復興へと変化しています。それに伴い、外部からの支援だけではなく町内から生まれる活動が活発化しています。しかし、町外では現地に対する関心が減少しており、行ってみたいが関わり方が分からないという声もあがっています。本プロジェクトでは、厚真町内のニーズと外部人材の関心の双方をマッチングし、厚真町内と外部の繋がり創出を目的に活動を実施しています。特に子どもの遊び場づくりを中心に、厚真町を訪れて現地の方と交流できる機会を作っています。

実施内容

活動・回数・参加人数
 ・シカ柵再建プロジェクト
 活動日数 13日 参加者 228名
 ・炭窯再生プロジェクト
 活動日数 5日 参加者 21名
 ・滞在プログラム
 活動日数 27日 参加者 107名
 ・冒険の杜ワークショップ
 活動日数 2日 参加者 10名
 ・厚真いなか祭り
 活動日数 1日 参加者 4名
 ・札幌市ふるさと応援隊連携事業(三本引き大会など)
 参加日数 2日 参加者 24名

活動日数50日 のべ参加者 394名

成果

地域の方と協力・連携し、子どもたちの遊び場づくりなど、地域のニーズに合わせた活動を実施しました。特に教育大学函館校、釧路校、北見工業大学など17名の学生が参加した長期滞在プログラムでは、日数を重ねるごとに参加者自身が変化、成長していく様子がかがえました。単発プログラムでも、これまで厚真町に関わったことのない人も多く参加し、新たな繋がりが生まれました。また、鹿柵再建プロジェクトや炭窯再建プロジェクトなど、地域再生に関わる活動でもボランティアコーディネートの役割を担い、活動を展開することができました。

声

ボランティア(20代女性)

厚真町で関わった方々は、年齢問わずともアットホームで温かい方々ばかりです。その方たちの温かさがあったからこそ、震災に見舞われても立ち向かっていけるのだと感じました。そんな町と人々にまた会いたいです。

ボランティア(20代男性)

地域の方からお話を積極的に聞けず、被災後の現状をあまり深く知ることができなかった一方で、災害ボランティアを「ボランティア運営側」からの視点で見ることができたこと、他の参加者との共同生活が貴重な経験となりました。



畑の周囲に鹿の侵入を防止するための柵を再建



壊れた炭窯を再生



放課後児童センター横のスペースにウッドデッキ作り



子ども自然体験イベントでこどもたちと遊ぶ様子